



昭和二五年（一九五〇）、日本の国土が敗戦で荒廃しきつていた頃の出来事です。キジア台風と呼ばれる大型の台風によって、愛媛県西条市の広江川口の海岸堤防が決壊しました。決壊した堤防から海水がどんどん流入し、街中に流れ込んで、家々に浸水し始めました。

堤防からの浸水を阻止^{そし}するために、消防団員を中心として町の女性や子どもに至るまで総動員して土のうを投げ込みました。しかし、積み上げた土のうは想像を絶する波力の前に瞬^{またた}く間に破壊され、また大量の海水が流入し始めました。消防団員たちは落ち込む暇もなく、土のう作りを再開し、再度、堤防に積み上げました。今度はしばらく持ちこたえたもののやはり自然の猛威^{もうい}の前に破壊しつくされました。さらに三回目に積み上げた堤防も同様でした。

三回も積み上げて、消防団員たちの体はさすがに疲労の極に達していました。誰もが、これはもう無理ではないかと思いはじめていました。しかし、最後の力を振り絞って、四回目の土のう作りと投入に取り組みました。やっこの思いで堤防を積み上げたとき、人々にもう力は全く残っていませんでした。みんなは祈るような思いで修復した堤防を見つめていました。

台風の荒波に今にも壊れそうになりながらも堤防は持ちこたえることができました。これを見守っていた人たちから誰とは無しに歓喜の声が上がったのは言うまでもありません。

背景

昭和25年（1950）9月13日、中心気圧940hPaのキジア台風が九州に上陸し、その後、中国地方の西端から日本海を北東方向に進み、九州・四国に甚大な被害をもたらしました。昭和21年（1946）の南海地震による地盤沈下のため海岸堤防の補強が十分できていなかった頃で、台風による高潮のため海岸地帯に大被害が出ました。この話は、堤防決壊のため大被害を受けた広江地区などの様子を記したものです。

アクセス 広江川河口

- JR壬生川駅より東へ直線距離約3km
- 西条市広江
- 緯度経度 北緯33度55分29秒，東経133度07分03秒

